

第11回 夏の教育セミナー

教育で日本の未来をつくる

国語

おさらい
新共通テスト
変更のポイント

異種の文章を組み合わせ、教材に

来年1月の大学入学共通テストから新教育課程に対応した内容に変わった。変更点をおさらいし、高校での指導致考える。

国語は「近代以降の文章」の大問が一つ追加される。これによって現代文が3問、古典が2問の5問構成になる。各大問を5点ずつ減らし、新たに追加する大間に配分するた

め、配点の200点満点は変わらない。

追加の大問では、どのような問題が出されるのか。令和4年に大学入試センターは試作問題を二つ公表している。

一つは、気候変動の影響について調べ、リポートを書く言語活動の場面の問題。地球温暖化に関する文章と、平均気温・降水量などのグラフの読み取りが問われる。加えて、リポートの目次や構成を考える問題も出された。もう一つは、日本語に特有な役割についてのリポートを書く場面で、引用しているグラフや文章を読

高校で広まる教科横断・融合授業

昨年、1年生に「時間の流れ」をテーマにした2時間組きの授業があった。担当したのは3人の教員。まずは物理の教員の下、生徒たちが振り子を作り、3分間を正確に測る実験に取り組む。次いで、生物の教員が、生物に備わっている体内時計のリズムをつくっている小林秀雄の評論などを取り上げた。

口から「時間」について考えることを自指した教科融合授業だ。教材開発の担当メンバーの酒川徳行教諭は「現代の複雑な問題を理系・文系の枠を超えて、多角的で俯瞰的に学べる環境が必要だと考えた」と説明する。授業を受けた生徒からは

滋賀県立彦根東高校で昨年、1年生に「時間の流れ」をテーマにした2時間組きの授業があった。担当したのは3人の教員。まずは物理の教員の下、生徒たちが振り子を作り、3分間を正確に測る実験に取り組む。次いで、生物の教員が、生物に備わっている体内時計のリズムをつくっている小林秀雄の評論などを取り上げた。

「絶対的なものだと思つた時間が別の面から見ると相対的なものであつた」と感想が寄せられた。



教科融合授業に取り組む生徒たち=彦根東高校提供

酒川徳行教諭は「現代の複雑な問題を理系・文系の枠を超えて、多角的で俯瞰的に学べる環境が必要だと考えた」と説明する。授業を受けた生徒からは「絶対的なものだと思つた時間が別の面から見ると相対的なものであつた」と感想が寄せられた。

「絶対的なものだと思つた時間が別の面から見ると相対的なものであつた」と感想が寄せられた。

社会課題、多角的に考える

社会的課題の解決策を複眼的な観点から考えられる能力を育てよう、教科横断や文理融合といった取り組みが高校で広まっている。鍵になるのは教科の枠を超えた教員間の連携だ。

社会的課題の解決策を複眼的な観点から考えられる能力を育てよう、教科横断や文理融合といった取り組みが高校で広まっている。鍵になるのは教科の枠を超えた教員間の連携だ。

社会的課題の解決策を複眼的な観点から考えられる能力を育てよう、教科横断や文理融合といった取り組みが高校で広まっている。鍵になるのは教科の枠を超えた教員間の連携だ。

社会的課題の解決策を複眼的な観点から考えられる能力を育てよう、教科横断や文理融合といった取り組みが高校で広まっている。鍵になるのは教科の枠を超えた教員間の連携だ。

社会的課題の解決策を複眼的な観点から考えられる能力を育てよう、教科横断や文理融合といった取り組みが高校で広まっている。鍵になるのは教科の枠を超えた教員間の連携だ。

社会的課題の解決策を複眼的な観点から考えられる能力を育てよう、教科横断や文理融合といった取り組みが高校で広まっている。鍵になるのは教科の枠を超えた教員間の連携だ。

社会的課題の解決策を複眼的な観点から考えられる能力を育てよう、教科横断や文理融合といった取り組みが高校で広まっている。鍵になるのは教科の枠を超えた教員間の連携だ。

社会的課題の解決策を複眼的な観点から考えられる能力を育てよう、教科横断や文理融合といった取り組みが高校で広まっている。鍵になるのは教科の枠を超えた教員間の連携だ。